



Vol. 53

Pegasus News

ペガサスニュース

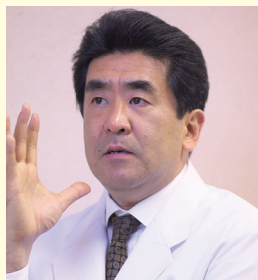
発行人 馬場武彦
発行 社会医療法人ペガサス
大阪府堺市西区浜寺船尾町東4-244
http://www.pegasus.or.jp/
編集 ペガサス広報委員会 編集グループ
編集協力 HIPコーポレーション
発行 / 平成23年9月30日

HEADLINE



7月31日、内覧会を開催。
大勢の方々にお越しいただきました。

一方、馬場病院の創設者・馬場満の名前を冠した馬場満記念クリニックは、馬場病院の外来機能を引き継ぎます。風邪などの急症状に対応する一般診療外来に加え、専門外来の機能を備え、脳神経外科をはじめ、各分野の医師が高度な専門診療を行います。ま



エクウス施設長兼
馬場満記念クリニック院長
新田 敦範



ペガサスの原点である馬場病院。和泉市上町にて昭和52年に開院して以来、地域に根ざした医療を提供し、地域の方々に親しまれてきました。しかし、施設の老朽化とともに、厚生労働省が療養病床再編計画を打ち出したことを踏まえ、数年前から病院機能の見直しを検討。この8月より、介護療養型老人保健施設「エクウス」と馬場満記念クリニックへと姿を変え、新たな一歩を踏み出すことになりました。両施設のオープンに際しては、地域の方々や医療・福祉関係の方々をお招きして内覧会を開催し、和泉市における新たな出発を祝いました。

複合的な機能を備えた 和泉在宅支援ユニットとして 地域医療を支えています。

馬場病院に併設されていた在宅療養支援体制は、これまで通り継続していきます。具体的には「ペガサスケアプランセンター和泉」「ペガサス訪問看護ステーション和泉」「ペガサスデイケアセンター和泉」

の3つの事業所、さらに「ペガサスいきいきネット相談支援センター」を運営し、和泉市、高石市を中心に、在宅で療養を続ける患者さまとご家族を支えています。高齢化社会の進展とともに、患者さまへの継続ケアはますます重要性を増しています。新しい和泉の拠点は、介護施設とクリニックに併設事業所を加えた複合的なサービスを提供する、言わば「和泉在宅支援ユニット」として、地域の在宅医療に貢献していきます。そして、急性期から回復期、療養期へと継続した医療サービスを提供するペガサスグループのなかにあつて自らの役割を果たし、法人全体のネットワーク力の強化を支えています。同時にまた、地域医療にすべてを捧げたペガサスグループ創設者・馬場満の心を受け継ぎ、これからも皆さまに慕われる医療・介護の拠点として発展をめざしていきます。

馬場病院が 二つの新しい施設となり、 新しい歩みを始めました。

馬場病院の入院機能と 外来機能をしっかりと 引き継ぎます。

た、外来リハビリテーションにも力を注ぎ、午前診はもちろん、午後診でも、理学療法士によるリハビリテーションを提供していきます。このエクウス施設長および馬場満記念クリニック院長には、元馬場記念病院外科部長 新田敦範医師が就任。「この地域で、新しい役割を担う老人保健施設を作るとともに、クリニックでは必要に応じて専門医による診察を行い、地域医療に貢献していきたい」と意欲を燃やしています。

皆さまに愛されてきた馬場病院は、介護療養型老人保健施設「エクウス」と 馬場満記念クリニックとして、新しく生まれ変わりました。

Report

社会医療法人ペガサス 外来診療のご案内

平成23年9月1日現在

	診療時間	診療科		月	火	水	木	金	土
馬場記念病院	午前診 9:00～ 受付 8:30～12:00	内科 循環器科	1診	山下 啓 (循環器)	坂本常守 (循環器)	難波雅司 (循環器)	平田明子 (内科)	坂本常守 (循環器)	田口晴之／島田健永 第1・3・5週／第2・4週 (ともに循環器)
			2診	平山道彦 (循環器)	永田光里 (呼吸器)	周藤弥生 (糖尿病)	棚野吉弘 (呼吸器)	玉垣学也／棚野吉弘 第2・4週／第1・3・5週 (ともに呼吸器)	
		外科 消化器科	外・消1診	金原 功	坂下克也	豊川貴弘	金原 功	寺岡 均	福岡達成 第1・3週
			外・消2診	原 順一	寺岡 均	真下勝行	坂下克也 (胃ろう外来)	平田直人	大平雅一 第2・4・5週
			外・消3診		河内屋友宏		原 順一		北田拓也 (肝臓病)
		脳神経 外科	脳外科1診	宇野淳二	伊飼美明	魏 秀復	宇野淳二	魏 秀復	交替制
			脳外科2診	徳永 聡	馬場武彦	徳永 聡	長岡慎太郎	伊飼美明	
			脳外科3診	長岡慎太郎	甲斐康稔	松尾吉紘	松尾吉紘	甲斐康稔	
		(脳)神経 内科	(脳)神経内科1診	高橋光雄	北口正孝	峯田春之	北口正孝	金田明子	濱田征宏
			(脳)神経内科2診	中谷芳美	千本裕子	西本和弘	楠 進 第1・3週	長谷川隆典	
			(脳)神経内科3診				平賀定一		
		整形外科	整形外科1診	本田良宣	山北真也	本田良宣	本田良宣	山北真也	交替制
			整形外科2診	篠塚宗徹	岡垣健太郎	篠塚宗徹	吉野信之	岡垣健太郎	岡田充弘 第1・3週
			整形外科3診	釜野雅行	岡田 貴		岡田 貴		庄司恭之 第1または、第3週(背椎)
		形成外科		山本喜英	山本喜英			山本喜英	山本喜英／矢野 基 交替制
	午後診 14:00～ 受付 13:00～15:00 は 予約が必要です。 必ず予約のうえ ご来院ください。	内科				坂本常守 (循環器)			
						玉垣芳則／若山公作 第2・4週／第1・3・5週 (在宅酸素)			
		(脳)神経内科		北口正孝		北口正孝			
				池尻義隆 第2・4週		南部泰孝 (睡眠時無呼吸外来)			
		整形外科		岡垣健太郎(関節の外来)	釜野雅行 (手の外来)		装具外来 (14:00～14:30)		
			山北真也 装具外来(14:00～14:30)						
		泌尿器科		野澤昌弘		清水信貴(予約検査) 吉村一宏(診察のみ)	野澤昌弘		
	ペガサスクリニック	午前診 9:00～12:00 受付8:30～12:00	1診	永田安德	永田安德	永田安德	永田安德	永田安德	永田安德 第1・3・5週 矢野 基 第2・4週
			2診	宇治義正	戸田千綾	宇治義正	宇治義正	宇治義正	岡本隆司 第1・3週 田中秀典 第2・4・5週
			3診		担当医				
夜診 18:00～19:00 受付17:30～19:00		1診	永田安德	矢野 基	宇治義正	宇治義正	担当医		
		2診	担当医	担当医	担当医	担当医	永田安德		
ペガサスデイケアクリニック	午前診 9:00～12:00 受付8:30～12:00		中林孝之	長谷川隆典	中林孝之	中林孝之	中林孝之	中林孝之	
	午後診		往診	往診	往診	往診	往診		
馬場満記念クリニック	午前診 9:00～12:00 受付8:30～12:00	1診(総合外来)	久保俊彰 (漢方外来)	新田敦範	新田敦範	久保俊彰	千本 裕子	交替制	
		2診(専門外来)	担当医 (脳神経外科)	本田良宣 (整形外科)	担当医 (脳神経外科)	山本 喜英 (形成外科)	北口 正孝 (脳)神経内科)	――	
	夜診 18:00～19:00 受付17:30～19:00		担当医	新田敦範	久保俊彰	新田敦範	担当医	――	



社会医療法人
ペガサス

ペガサスロイヤルリゾート石津 からのお知らせ

秋祭りを開催します。

東 日本大震災の影響のため延期していた夏祭りを、秋祭りとして開催します。これはペガサスロイヤルリゾート石津のご入居者、ペガサスデイサービスセンター石津・2号館ご利用者の親睦と地域交流を目的としています。職員による催し物を企画しています。ぜひお立ち寄りください。

日時 10月22日(土)14時～17時
場所 ペガサスデイサービスセンター石津2号館前広場

ペガサス脳卒中センター ペガサス消化器センター

馬場記念病院では、脳神経外科の医師とコメディカルとのブレインチームによる「脳卒中センター」、また、外科と消化器科とのチームによる「消化器センター」を設置し、高度な専門治療の提供を行っています。

10月のペガサスセミナーは、

「装具を安心・安全にご利用頂く為に」
～装具の無料点検いたします～

麻痺した足で安全に歩けるように補助するのが「下肢装具」です。足の状態変化や劣化・破損があれば作り替えや修理が必要です。下肢装具の目的や作り替え・修理が必要なタイミングや制度の活用方法などお話しし、当日は装具の無料点検をいたします。

講師：笹尾明彦 川村義肢株式会社
竹村悠里 馬場記念病院 医療福祉相談室
日時：10月20日(木) 午後2時～3時
場所：馬場記念病院 1階 ロビー

10月の介護支援セミナーは、

食事量不足していませんか？

年を重ねるにつれて色々な理由から食事量は減ってきます。どれくらい食べた方がいいのか、不足しがちな栄養等簡単なアドバイスをさせていただきます。また、ご自宅での準備が難しいという方のためにレトルト食や宅配食についてご紹介します。

講師：澤田陽子・栗原由衣
社会医療法人ペガサス 管理栄養士
日時：10月28日(金) 午後3時～
場所：介護療養型老人保健施設ペルセウス 3階食堂

馬場記念病院からのお知らせ

8月1日より、電子カルテを導入しました。

電子カルテとは、患者さまの診療記録や行った検査データを、コンピュータを用いて電子的に記録・保存をするシステムです。ネットワークを通じてリアルタイムに情報更新が行えるため、院内で患者さまの情報共有がスムーズにできます。そのため、より最良の医療提供が可能になります。なお、新システム導入時には待ち時間等でご迷惑をおかけしました。今後、地域の皆さまのご期待に添えるよう、さらなる努力をしていきます。よろしくお願いたします。

10月は“乳がん啓発強化月間”。
第3日曜日にマンモグラフィ検診を実施します。

女性がんのトップである乳がんは、早期発見できれば比較的治癒しやすいがんでもあります。そのためには、毎月の自己検診だけでなく、医療機関で定期的に検診を行うことが必要です。馬場記念病院では、NPO法人J.POSHの「ジャパン・マンモグラフィ・サンデー」に賛同し、10月の第3日曜日(16日)にマンモグラフィによる乳がん検診を実施します。ぜひご利用ください。受診希望の方は、事前に健診室までご予約をお願いします。

■お問い合わせ 健診室 072-265-6006

病院情報の“健康診断”。
「はとはあと評価」の認定を受けました。

「はとはあと評価」とは、NPO法人日本HIS研究センターが行う病院情報の“健康診断”です。NPOや市民の目線から、より適切で健全な医療施設情報のあり方を評価し、今後の改善に生かす活動です。当院は「情報公開レベル優良施設」として、5/Stage-1の第三者認定を受けました。これは、当院の広報や情報活動の透明性・適切性が評価された結果といえます。今後も、患者さまや職員への情報提供や相互のコミュニケーションの向上など、透明性を高める諸活動に、病院をあげて取り組んでいきます。



ペガサスリハビリテーション病院 からのお知らせ

9月14日、ペガサス保育園より、4・5歳児クラスの子ども達がデイケアセンターを訪問しました。園児から元気な声であいさつの後、「大きな古時計」「パンのマーチ」を合唱。利用者へ手作りのレイをプレゼント。利用者からは園児へペンセットをプレゼント。楽しく賑やかな時間を過ごすことができました。



S p e c i a l

馬場記念病院 最前線

シリーズ
18

臨床放射線部

充実の画像撮影装置を駆使した
安心・安全・迅速な検査を通し、
患者さまにやさしい医療を提供。

一年365日24時間、
日曜日も検査を実施。

私たち臨床放射線部には、診療放射線技師20名と医療クランク2名がいます。1年365日24時間体制で検査に対応し、よりの確かつ鮮明な撮影画像を提供することで、診断・治療が円滑に行われるようサポートしています。臨床放射線部が心がけていることは、「患者さまにやさしい医療」です。それは安心・安全・迅速な医療の提供。その取り組みの一つが、患者さまの検査時間や検査の待ち日数を減らすことで



私たちの主な業務は、一般撮影(X線検査)をはじめ、CT検査やMRI検査などがあります。CTとは、人体にX線を照射して、体内組織のX線吸収値をコンピュータで計算処理し、体の水平方向の輪切りにした画像を作成する装置です。当院では、一度に最大64の断面像を得ることができる64列マル

す。そのため、通常17時までの検査を20時まで、さらに日曜日にも検査機器を稼働させるなど、患者さまはもちろん、登録医の先生方の希望に沿えるよう努力を重ねています。また、救急病院である当院は、深夜にも多くの救急患者さまが搬送されますが、臨床放射線部では十分な経験がある技師が夜勤に従事しており、どのようなときでも迅速・的確な検査の実施に努めています。

CT、MRIをはじめ、
専門的で多様な検査。

チスライスCTを導入。従来の装置に比べ大幅な検査時間の短縮を図ることができ、患者さまの負担が大きく軽減されました。さらに、この装置は冠動脈の撮影も可能であり、これまで入院での心臓カテーテル検査が必要であった病気も、外来でのCT検査で、ある程度判断できるようになりました。また、MRIは、磁石と電波を使って体内などの画像を撮影する装置です。放射線による被ばくがなく、あらゆる角度の断面像から体内の様子を知ることができます。当院はMRI装置2台体制であり、両装置の特性を活かした運用をしています。この他にも、脳血管撮影、心臓カテーテル検査、RIなど、多くの検査を担っています。

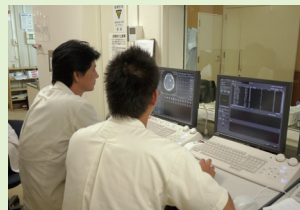
電子カルテと連動した
情報管理システム確立。
よりの確な撮影が可能に。

当院では、8月1日から電子カルテを導入し、画像保存通信システムによるモニター診断が稼働しました。それに付随して、臨床放射線部内での情報管理システムが確立。一人ひとりの患者さまの諸検査情報が、すべての端末で共有、また半永久的に保存できるため、検

査確認作業が容易になるともに、過去の撮影画像を確認しながら撮影することが可能となりました。これにより患者さまには、例えばCTの場合、目的とする必要な部位にだけ放射線を当てることで、被ばくのさらなる減少や、よりの確な画像撮影が可能となりました。

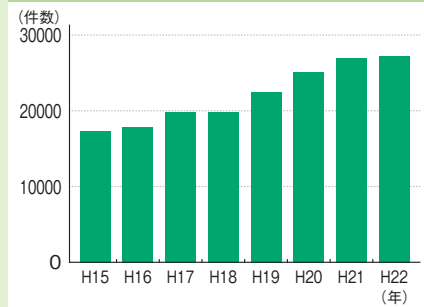
画像を読み取る「職人」
という自負心のもと、
さらなる成長を。

高精度の検査装置を導入しても、それを使用する診療放射線技師が未熟なら、正確な画像を得ることはできません。正しい診断に到達するために、診療放射線技師は撮像技術だけではなく、画像を読み取る目も臨床の場において必要となります。技師が画像を読み取り、部位の異常に気づけるかどうかは重要であり、それが分からない場合は撮り直しをするなど、結果として患者さまに

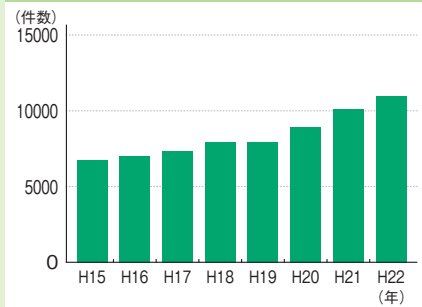


負担をかけること
になります。私
たちは、「画像は嘘をつかない。
嘘をつく

CT年間撮影件数



MRI年間撮影件数



のは見る人である」という言葉を教訓とし、検査装置の能力を最大限に活かして、正確な画像を提供できる「職人」であるという自負心のもと、スタッフ個々のレベルアップに努め、医療を提供していきます。

馬場記念病院
臨床放射線部 技師長 白岩孝